

「梅雨の大切さ」

～6月22日（月）放送での校長先生のお話～

緑野小学校のみなさんおはようございます。梅雨の時期になりは雨が降る日が多くなりましたね。先生方、漢字で「梅雨」と縦書きで黒板に書いてください。上の字は「うめ」と読みます。みんながよく知っている酸っぱい「梅干し」の「梅」という漢字です。下の字は「あめ」と読みます。この漢字で、「梅雨」と読みます。ではなぜ、6月から7月に降る雨の時期に「梅」の字が使われているのでしょうか。いろいろな説があるようですが、その一つを紹介します。

梅の実が大きくなるためには雨が必要です。6月の初めのころはまだ実が硬くても、6月の終わりごろには大きくなって収穫ができるようになります。大きくなった梅の実が熟して潰れる時期でもあることから、「梅が潰れる時期の雨」ということで「梅雨（つゆ）」になったそうです。

さて、雨がたくさん降っていると外にも出かけづらいし、じめじめしていていやだなあと思う人もいるでしょう。でも、このたくさん降る雨は、日本に住む私たちにとって、とても大切なのです。皆さんが毎日おいしく食べているお米は、6月から7月にかけてぐんぐん生長します。お米が育つためには、たくさんの水が必要になるので、梅雨の雨が大切なのです。また、私たちの生活にも水が欠かせません。皆さんも飲み水やお風呂や洗濯・料理等、毎日たくさんの水を使っていますね。そのためには、水を貯めておく必要があります。特に、梅雨が明けると暑い夏がやってきて、雨も少なくなります。日本では、山に降ったたくさんの雨を、山の中で川を堰き止めて作った「ダム」という場所に貯めることができます。私たちは、そのダムから川に流れてくる水を、きれいにして使っています。梅雨の雨は、私たちが夏に使う水を、たっぷりとダムに貯める素晴らしいチャンスになるのです。

こう考えると、梅雨も大切なのだということが分かってきますね。校長先生は、雨に濡れて光るアジサイの花が大好きです。皆さんもこの時期に、雨の大切を感じながら、雨が降った時の楽しみもぜひ見つけてほしいと思います。

ではこれで、校長先生のお話を終わります。